

国債価格に影響

このところ長期国債の利回りである長期金利が急速に上昇を始め、市場関係者が騒いでいる。長期金利で財政運営が厳しくなることには警戒しなくてはいけない、と総理や経済担当大臣の国会での発言が続いた。

長期金利とは、10年あるいはそれ以上先に満期がくる国債の利回りのことである。通常は、10年先に満期がくる国債の利回りを指すことが多い。専門的で分かりにくいかもしれないが、国債の利回りが高いほど、国債の価格は安いといふことである。

伊藤 元重

機構 教授
大東 教授
研究 長
総合 理事

10年物の国債は、10年後に一定の価格で買い取ってもらえる(これを償還といふ)。もし現時点での市場価格が安ければ、それだけ買い取り価格との差が大きくなり、利回りが大きくなるというわけだ。もちろん、現時点での国債価格は、市場の需給で日々変動する。

府も金融機関も国債の利回りを気にする。では、なぜいま国債の利回りが上昇を始めたのだろうか。日本銀行が大量に国債を購入すると言ったので、長期金利はむしろ下落するのではないのか。多くの人がそう考える。たしかに、日本銀行が大量の国債を購入すると宣言した

長期金利の動きに注意必要

債の利回り(長期金利)を気にするのは、それが国債価格を意味するからだ。長期金利が上昇するほど、国債は安くなるので、金融機関は保有する国債の価値が下がってしまいます。また、国債利回りが上がれば、いずれは政府の国債の金利負担も増えてしまいます。だから政

4月以降、長期金利は急速に下落を始めた。ただ、そうした事態は長く続かず、ここに来て長期金利は上昇を始めたのだ。長期金利が上昇を始めたことには、好ましいと考えられる理由が二つ、そして懸念すべきことが一つある。

好ましい点であるが、長期金利が上昇始めたのには、資金の動きが活発になってきたということがある。これまで金融機関は資金を持っていくところがなかったのだ。大量の国債を購入していた。しかし、安倍政権の積極的な政策によって株価などが上昇を仕はじめたので、金融機関や投資家は、リスクをとって株式や不動産などへ資金を回し始めた。それが結果的に国債からの資金の移動を起し、国債の利回りである長期金利が上昇を始めたのだ。

って物価が上がらないと考えてきたことと深く関係している。もし人々が近い将来物価は上がると考えれば、長期金利もそれを織り込んで上昇し始めるはずだ。それが今起こりつつあるのかもしれない。デフレを脱却することが当面の日本経済にとって重要であるので、これもよい動きだ。

財政運営懸念も

もう一つの好ましい点は、デフレ脱却の予想が広がってきたことだ。日本の長期金利が低いということでは、多くの人が将来にわた

ただ、懸念すべきこともある。長期金利が上昇するということは、国債価格が下がるということでもある。これ以上に長期金利がさらに上がり続けるようであれば、国債保有を続ける金融機関に不安が出てくる。財政運営にも懸念が生じてくる。今の時点でまだこの点を心配する必要はないが、今後の長期金利の動きには注意を払わなくてはならない。

*この記事は静岡新聞社編集局調査部の許諾を得て転載しています。